

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病院長 岩波 明

〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭

〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第193号

[2023年9月30日発]

漫画家 三森みさ先生 講演会

依存症に限らず精神疾患にかかった事は恥な経験でしょうか？偏見が多い社会では隠さざる得ない時もあるかも知れません。それでも僕達精神科医療者は精神疾患になった経験を「価値ある体験」にしてもらえたらと思っています。今回は依存症になった過去を「依存症になった過去は私の誇り」と話す、厚生労働省の啓発予防漫画を描かれた三森みささんに講演頂きました。

以下三森さんからのメッセージです。

講演会の依頼を初めてもらったとき、「私の話を聞いて何が面白いんだろう...?」と不思議ではなかった。自分にとってはただの現実でしかないからか、自分の話ってそんなに面白みを感じない。何を話せばいいのかわからないまま、ぶっつけ本番で講演会を始めて、なんだかんだで4年が経過した。

経験を重ねるうちに、当事者にとって他者の体験談を聞くことは、特別な内容や表面的な出来事よりも「出来事は違えど自分にもこんな苦しみがあった」と知ることの意味があるんだと、最近になってわかった。

家庭環境や逆境体験が違えど、共通している苦しみ。それは多分「自分が周りから社会から拒絶されること」「そのことによって偽りの自分を演じなくてはならないこと」なのだと思う。

ZOOMオンライン講演会は楽しさがあっていいのだが、顔が見えるリアルな講演会は人とつながってる感覚を強く感じられる。特に大きな会場じゃなくて一室でする講演会は聞き手の顔がよく見える。どう思われてるのか気になるのでドキドキはするが。

その中でも病院は気持ちが楽になる。一般の方に向けて話すと、インパクトが強いのか、内心驚いてるような気を遣ってるような表情が読み取られ、アウェイな感じがするのは否めない。だが病院での講演会は自分と同じ依存症の人や医療の人がうなずきながら聞いてもらうことが多い。それを見て話してるこっちがホッとする。ホームにいるような感覚だ。

入院してる方から飛んでくる質問も「ああ、わかるわ...」と言わんばかりの質問ばかりで、依存症は違えど、私たちはやはり仲間なのだなあと感じる。

同じように思い悩み苦しんでいた人間がちゃんといること、苦しみが少しずつ変わったこと。

そんな似た境遇の人に出会う経験が、私には圧倒的に足りていなかったのだと、話しながら聞き手の皆さんが共感してくれる様を見て、いつも考えさせられる。

何かの依存行為がやめられない、貧困に陥るよりも、結局「自分は他人とは違う人間」「こんな気持ちを抱えてるのはこの世界で自分一人だけなんだ」と抱える方がずっと辛かった。

だから講演会の機会は、話す側にも改めて「あなたは一人ではない」と教えてくれる貴重な機会だと思っている。本日も招いていただいて、ありがたい限りである。

B4 病棟新型コロナウイルス感染症対策について

B4 病棟看護師長 伊宝田 さとみ

B4 病棟は慢性期病棟 58 床、主にアルコールやギャンブル依存症を抱えた患者さんが社会復帰を目指す病棟です。今年 7 月 15 日（土）に一人目の新型コロナウイルス陽性者が発生。その後、患者 35 名が感染するクラスターとなり、1 ヶ月後の 8 月 15 日（火）にようやく終息宣言が出されました。2020 年の新型コロナウイルス感染症発生以来、当院でのこの規模の発生は初めてということで、戸惑うことが多々ありました。が、ICT からのサポートをいただきながら病棟内でどのように対応し終息を迎えたのかについてお伝えいたします。

陽性者二人目までは他病棟の個室に隔離させていただきましたが、連日の陽性者発生のため当病棟内でのコホート隔離対応となりました。そのため陽性者が出れば連日病室の移動やトイレ洗面所の区分けに追われました。また患者さんは隔離状態のため、病室内での食事に伴い食事形態は誤嚥窒息防止食（全粥軟菜など）に変更、病室前には冷水ボトルの設置、患者さん私物衣類の洗濯はスタッフが代行、シャワーはノーマスクのため小人数で黙シャワーなど患者さんにとってもスタッフにとってもストレスのかかる日々でした。当初は終息に向けて「短期決戦」を掲げ、治療となる自助グループ会参加のための外出やデイケア・プログラム参加、院内散歩や売店への買い物など病棟から出ることを一切禁止としました。が、一向に終息の兆しがないため、「治療は止めない！ With コロナ」に切り替えました。そのため、コロナに感染した場合のリスクの高い高齢患者さんや基礎疾患のある患者さんは他病棟に転出させていただき、治療となる自助グループ会参加の外出は感染対策をとり寄り道しないという条件で再開しました。案の定、外出している患者さんの感染が続きましたが、病室も罹患者（すでに回復し無敵状態）と陽性者を同室にするなどの対応で何とか調整しました。その結果、感染患者は 35 名まで拡大してしまいましたが、重症化する患者さんは一人もいなかったことをはじめ、戦略目標だった「他病棟に広めない」「スタッフが感染しない」という 2 つの目標をクリアしながら終息を迎えることができました。

とはいえ現在も新型コロナウイルス感染症との共存は続いています。今回の経験を教訓に慌てず迅速に対応していくことが大切だと実感しています。



ADOS について

昭和大学医学部精神医学講座 助教 関 静香

近年、大人の発達障害がメディアで取り上げられるようになり、発達障害に関する知識が以前よりも普及してきたように感じております。烏山病院の初診で予診をとる際に「自分自身が発達障害かもしれない」という主訴で来院される方が増えたように感じるのもその影響でしょう。

しかし、発達障害がクローズアップされる中で全てが正しい情報ではなく、時折誤った情報が流れていることもあります。例えば、「発達障害が後天性のもの」という情報です。発達障害は感染症や悪性腫瘍のような、ある時点を経験して発症するものではなく、いくつかの遺伝子の変異することで生じる先天性の疾患群に該当します。社会人になってから ASD 症状や ADHD 症状が目立ってくるケースもありますが、これは発達障害を後天的に発症したわけではなく、生来発達障害ではあったもののその人の属する環境の中では目立ってこなかったため指摘されてこなかったと考えられます。基本的には発達障害は幼児健診等で指摘され、児童精神科を受診することで診断がつくケースが多いです。



発達障害の診断をつける際にはご両親にも協力してもらいながら児童の年齢に応じて様々な心理検査を行っていきます。今回ご紹介する ADOS も発達障害の診断の参考となる心理検査の一つです。他の心理検査と同様、検査用具や質問項目を用いて自閉症スペクトラムの評価に関連する行動を観察する検査で、12 か月以上の乳児から成人まで評価可能です。検査内容は年齢に応じて異なり、成人の場合ですと文字のない絵本をみせて物語を作ってもらったり、検査者との対話を通して評価していくのですが、乳幼児の場合は発語もスムーズではないため、全体的に用具を使用していきます。例えば人形を使ってお風呂や誕生日パーティーの場面を再現してもらったり、沢山のおもちゃを用意した上で遊び方を観察していきます。検査時間は約 1 時間と長いため、乳幼児の場合は検査中、お母さまに近くで見守ってもらいます。

他の心理検査と ADOS の大きな違いとしては ADOS を施行するには資格が必要という点です。以前は海外でしか取得できなかったのですが、最近日本でも取得可能となったため、私自身現在 ADOS の資格をとるために奮闘しております。

心理検査のみで発達障害の診断がつくわけではありませんが、多くの検査をすることで治療方針の一助になるかと思うので、少しでも臨床現場の手助けになればと思っております。



デイケア活動 ゲームサークルについて

Cさん

私が参加しているゲームサークルを紹介いたします。木曜日の12時30分から13時30分がプログラムの時間です。たいてい6人参加しています。このサークルでやることは主にビデオゲームです。基本的には13時までランダムでそれ以降は「大乱闘スマッシュブラザーズSP」というゲームをやっています。このゲーム以外にも最近ではニンテンドーSwitchで「スプラトゥーン3」、「ポケモンSV」、「マリオカート8 デラックス」、「マリオパーティ」をやっています。基本的にはSwitchのゲームをやることが多いですが、たまにPS5をやることもあります。PS5では「ストリートファイター6」をやりました。



私が参加している理由は、いつもひとりでゲームをやっているのが、みんなとゲームが楽しみたいからです。みんな和気あいあいと楽しんでいます。参加当初はスマブラで他のメンバーが上手くてやられ気味だったけど、練習して勝てたことが嬉しかったです。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時
土曜日 8時30分～13時
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231
◎初診受付：月曜日～金曜日・8時30分～14時
土曜日 8時30分～12時
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《8月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,741(8,818)	6,498(6,211)
◇一日平均患者数	282.0(284.5)	249.9(248.4)
◆診療実日数	31(31)	26(25)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

こちら当院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



【編集後記】

9月になっても全然熱さは取れず、夏の終わりを感じるのはスーパーからスイカが無くなったことくらいでしょうか……。

今年は神津島産のスイカを食べました。10年近く年に3回仕事で行っているのに神津島でスイカを作っている事を初めて知りました。びっくりするほどおいしくて、10年間なんて見逃していたんだらうって落ち込みました。

もしかしたら知っているようでいて知らない事、目の前にあるのに気が付いていない幸せって結構多いのかもしれない。

(広報委員 常岡)

